



こども病院だより

No. 9



日本医療機能評価機構

当院は、
日本医療機能評価
機構の認定病院
です。



常念岳を望む

ご挨拶

院長 宮坂勝之

当院は去る五月二八日の
設立記念日に十五年目に入
りました。

平成五年に六十床でス
タートした病床数は、こ
の六月一日からは緊急入
院患者への対応改善を指
し、百五十七床へ増床され
ました。

六月二日には皇太子殿
下、妃殿下の行啓を賜りま
した。事前の報道は控え目
でしたが、沿道に詰めかけ
た予想を越える約千二百名
の歓迎の列にお応えになら
れ十分ほど遅れて御到着に
なりました。皇太子殿下は
翌週にご入院手術が予定さ
れており、また妃殿下にお
かれまして、朝からの炎
天下での御公務を感じさせ
ないご様子でした。約一時
間院内をご視察され、和や
かに患者、患者ご家族への
お声がけをなされました。
当日直接お声がけを受けら
れたご家族の方々は勿論、
私ども職員一同にとりまし

ても、大変喜ばしく光栄な
一日でございました。ご訪
問の様子は全国に報道され
ました。

六月十九日には、こど
も病院運営協議会が開かれ
ました。この会合は地元の方
々、患者ご家族、ボラン
ティアなど当院に直接的、
間接的に関わる院外の有識
者からご意見、ご教示を頂
き、日々の運営に役立てさ
せていただくものです。経
営の問題や患者受け入れの
対応から、駐車場、売店の
品揃えに至る幅広くかつ身
近な問題を取り上げ、御討
議いただきました。

昨年来、当こども病院
あり方に関しては広く県民
の関心が集まっておりまし
た。開設以来築き上げてき
た高度専門医療への高い評
価がある一方で、当院の経
営状況が県民に開示された
ことから懸念の言葉も発せ
られました。院内の職員や、
当院で医療を受けている患
者ご家族には、当院の医療
を直接受けていない方々と
の格差が分かりにくいこと

Contents

ごあいさつ	1
【シリーズ部門紹介】	
◎ 薬局	2
【小児の病気】	
小児のあざとレーザー治療	3
【ボランティアの窓から】	
花の水くれ当番	4
【院内とびっくす】	
行啓	4
泌尿器科常動化	5
【外来 医師担当表】	6



こども病院運営協議会

も事実です。院内に改革推
進室を立ち上げ、草の根で
あり方を検討する一方で、
広く県民に考えを問う必要
性が認識されました。
昨年末、県内の有識者を
集めた「こども病院のあり
方を考える会」が、県によ
り開催され、三回にわたる

議論の上で提言がまとめられました。提言は大きく以下の四点です。

① 県内医療機関の後方支援を中心とした救急医療を行う。

② 総合診療体制を敷き小児医療従事者の育成に努める。

③ 胎児救急を中心とした周産期医療を行う。

④ 県民に説明できる経営の健全化を行なう。

この提言と、病院内でまとめあげた改革指針との整合性に問題はなく、四月十八日には村井知事をお迎えして職員一同気持ちを新たに改革の実現に向かう意識が高まりました。現在は、院内に設立した病院再構築委員会が中心となり、病棟機能を考える部会、外来・手術室機能を考える部会、そして超過勤務や経営面を考える部会に分かれて、即決実行を旨に改革を進めており、院内病棟移転など実効性の高い行動がとられています。

小児医療が現行の保険診

療では黒字になりにくいことは良く知られており、加えて公的病院では、収益を度外視した政策医療を担う必要もあります。そうした不足分を補う形が一般会計繰入金ですが、こども病院に關して現在まで明確な基準や上限がなく、その上での赤字に対しても厳しい目が向けられることはありませんでした。そんな中で、昨年度当院は、一般会計から約二十一億円の無駄を履いた上ではありますが、三年続きの赤字から脱却し、約二億円の黒字となりました。入院患者数（約三〇〇〇名増）の増加と経営努力による支出削減がこれには大きく関与しており、職員一丸のこの一年間の経営改善努力は手前味噌ながら大いに評価すべきだと考えます。

この経営努力にもかかわらず、県財政の危機的状况から今年度予算で繰入金金更に大幅な減額が予定されており、病院経営上からは深刻に受け止めています。

当然ですが、経営改善は目的ではなく、良い医療をより多くのこどもに提供する手段です。様々な理由から当院で対応できない患者家族からの要請は増加する一方で、相変わらず当院受診の敷居が高いとの声も聞かれます。これからは、特に

急病センターや一般医療機関に向けて、当院が積極的に後方支援の役割を果たす姿勢を持つていることを広く知って頂くことにより、より多くの患者に貢献し、健全経営にもつなげたいと考えています。

【シリーズ】部門紹介

⑥ 〔薬局〕

薬局長 藤沢敏彦

薬局といえば、まず正面ロビーの左側で、なにやら粉を量ったり錠剤を数えたりといった姿を思い浮かべられることでしょう。私ども病院薬剤師の仕事は？と言いますと、まず処方せんの内容について、飲み方・副作用などを確認し、患者さん一人一人の症状に合った薬を作ることです。

次に、患者さんに薬を正しく使って頂けるように、薬の効き目・使い方・注意点などをお伝えする服薬説明や、入院患者さんの注射薬をセツトするのも重要な

業務です。また、病院内で毎日使う薬の購入と保管、そして各部署への提供と一貫した管理を行っています。

【調剤・製剤】
医師が、その患者さんに合ったお薬の内容を指示した処方せんの内容について、薬剤師がその方の過去の薬の服用状況・飲み合わせ・副作用・量・飲み方などの確認を行い、患者さん一人一人に適した形で調剤します。

粉薬については、目的とする薬剤・重量を正確に量り、一回分ずつ袋に分包します。この作業は、コ

ンピュータ監査システムにより人間のエラーを厳しくチェックしています。

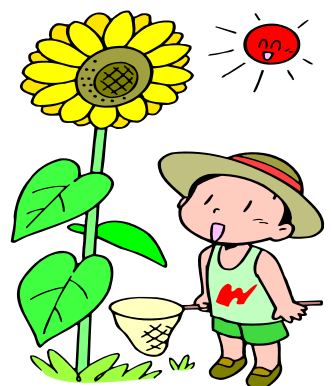
調剤された薬剤は、必ず他の薬剤師により、薬剤の種類、規格、数量（重量）が監査され、医師が指示したとおりの薬剤を患者さんに正確にお渡ししています。

【服薬説明】

患者さんに薬を正しく使って頂くために、薬の効果・使い方・注意点などをお伝えします。また、患者さんからの薬に関するご相談にも応じています。

【注射薬の調剤】

注射処方せんの内容について、投与量・経路・速度・期間などの確認を行い、無菌室での調剤が行われて



います。注射薬の中には混合すると濁ったり薬の効果が落ちることもありますので、これも事前に確認し、年間約四千四百人分の調剤を行っています。

【医薬品情報の管理】

患者さんに最も適した安全で効果的な薬物治療を行うために、数多くある薬の効果や副作用の情報を収集し、管理しています。薬の知識や最新情報を、医師や看護師などに的確に提供し、治療の現場を支えています。

【医薬品の管理と供給】

病院内において、医薬品の購入と保管そして各部への供給と一貫した管理を行っています。特に品質の管理（温度・湿度・光）には万全を期しています。さらに、血液を原料とする医薬品については、製造番号や使用した患者さんのお名前を二〇年間にわたって管理しています。

その他に、院内の感染防止や栄養管理に関する委員会での活動などがあります。

ます。このようにいろいろな仕事がありますが、薬について患者さんに安心して使っていただけのような努力をしています。

また、今年の三月一日から「院外処方せん」の発行を開始しましたが、患者さんのご理解・ご協力により順調に伸び、五月の院外処方せん発行率は約三〇%でした。

今後とも、お薬についての疑問・質問などありましたら、薬局長以下六人の薬剤師に遠慮なく声をお掛けください。お待ちしております。



【小児の病気】

「小児のあざとレーザー治療」

形成外科部長 野口昌彦
①あざの分類

小児の色素異常には先天性のものと、後天的なものがあります。あざは皮膚を構成する成分の過形成が原因であり、これらを総称して母斑と呼びます。母斑には色々な分類法がありますが、その母斑の特徴となる色素を中心に、その原因となる成分で分類すると、メラニン色素によるものと、血管によるものの二つに分けることが出来ます。前者には俗に言われる、茶あざ、黒あざ、青あざが含まれるのですが、これらはメラニン色素が存在する部位およびその量的な違いから生じる色素の違いであり、大別して表皮色素異常症と真皮メラノサイト系母斑に分けられ、扁平母斑、色素性母斑、大田母斑、異所性蒙古斑といった一般病名に細分化されます。

一方後者は総称して血管腫と呼ばれるものです。血管腫の範疇には血管の種類により、静脈が関与するもの、動脈が関与するもの、

毛細血管が関与するものがありますが、一般的に赤あざと言った場合は、この内の毛細血管での異常を指し、単純性血管腫（赤ワイン様血管腫）、莓状血管腫、サーモンパッチに代表されます。近年血管腫では、その病態の違いから、腫瘍的な性格（増殖能）を有するもののみを血管腫と呼び（従来の莓状血管腫はこの範疇に含まれます）、その他の全ての血管腫を血管奇形に（従来の単純性血管腫、海綿状血管腫はこの範疇に含まれます）分類するのが主流であり、前者はさらに出生時から存在し増殖傾向に乏しいもの（さらにその後の経過で、急激な退縮を示すものと、退縮傾向にも乏しいもの）に分類されます」と、出生後しばらくして出現

し増殖を示すものに分けられ、後者はその血流速度により slow flow type と fast flow type（いわゆる動静脈シャントを伴うもの）とに分けられます。

②あざのレーザー治療

これらあざの治療においては、メラニン色素系、血管系を問わず、レーザー照射が第一選択となります。レーザー（LASER）という名称は Light Amplified with Stimulated Emission of Radiation の頭文字を取ったものであり、一九六四年にルビーレーザーが治療に用いられてから、すでに四十年近い歴史を持ちますが、その間に照射による悪性腫瘍の発生などの報告はなく、理論的にも安全性が高い治療法と言えます。近年Qスイッチ（短時間に高出力のエネルギーを照射することが可能となり照射痕が傷になりにくい）、クーリングデバイス（液体窒素ガスの噴霧を併用することで痛みおよび照射後の色素沈着を軽減させる）などの



異所性蒙古斑

技術的進歩により更なる安全性の向上が成されています。また安全性の向上とともに適応疾患も拡がっており、たとえば蕁状血管腫に対する早期レーザー照射（特に出現後二〜三ヶ月までの）は、その後の血管腫の増殖を抑制する作用があることがわかってきました。一方、レーザー治療の適応はあるものの、その効果が得にくいタイプのあざもあり、その代表が扁平母斑です。扁平母斑は茶褐色調の色調を持つ扁平なあざであり、レーザー照射にて一時的な改善を認めるものの、照射後数ヶ月すると再びもとの状態に戻ってしま

う再発性の高い疾患と言えます。現在この扁平母斑に對しては、レーザー照射後に、再発予防的に、メラニン色素生成抑制作用のあるハイドロキノロン軟膏などを併用する治療が取り入れられ、治療成績の向上が期待されています。また色素性母斑（色調が強いタイプで、いわゆる黒あざがこれにあたります）では色調改善が得られるまでの同一部位に対する照射回数が二〇回以上を要することから治療期間が数年におよんでしまい、形状および部位によっては切除縫縮の方が良い適応となります。さらに広範囲の色索性母斑では将来の悪性変化の可能性を考慮する必要がありますが、レーザー照射では色調のみが改善されることになり組織自体の性質は改善されません。そのため将来的な悪性腫瘍発生の可能性は残ることになり、レーザー照射では将来の悪性化も含めた根本的な治療にはならない点が問題となります。

実際の治療においては、照射による痛みをコントロールする必要があり、通常は表面麻酔薬の塗布による鎮痛を行います。しかし広範囲を一度に治療する場合は、全身麻酔下での照射が望ましく、この場合二日程の入院が必要となります。

最後に費用に関してですが、あざに對するレーザー治療が保険で行えるようになったのは、ごく最近のことであり、同じような色調のあざでも病名によっては保険適外となる、同一部位への追照射には一定期間空けなくてはいけないなど、まだ色々な面での問題を含んでいます。

③おわりに

あざの治療開始時期においては、年齢についての制限は特になく、個々の状態により部位（露出部か非露出部か）、範囲（広範囲か）、および色調（濃いか薄いか）などを考慮し決定されます。疾患の性格上、患児の社会生活面からの適応や美

容面といった面からの適応も考えていく必要があります。治療につき迷われている場合は、担当の医師に相談ください

「ポランティアの窓から」 花の水くれ

太田直子

― はじまり ―
一九九九年の春。一病北側の個室にいた娘に、花見用の桜の木が届けられた。自称「娘のトモダチ」と言っていたその人は、三人の友達に手伝わせて、蕾のソメイヨシノを大きな器に立て、庭に置いて行つた。

花が散り若葉が風にそよぎ始めていた。朝カーテンを開けると木は片付けられ、数鉢のチューリップがゆれて咲いていた。

二〇〇〇年の春に事務長の許可をいただき、中庭に鉢植えの花を置き始めました。桜、チューリップ、トモダチの心：どれもみな私共夫婦だけで止めてはいけないモノでした。桜の年輪と同じ年月続けたいと思いました。

― それから ―
多くの花を枯らし、失敗をして学びました。二〇〇三年には、花の世話を一緒にしてくださる方が、一人二人と現われました。今迄に延べ三〇名程の方が関わってくれました。整形外科チームが木曜日の水当番を申し出られた年もありました。豊科南小の児童が育てた花や、地域の方が持ち込まれた花の世話もしました。医事の方から苗の寄付もありました。しかし何と言っても水くれです。夏は二日で枯れる花の命を秋まで繋ぐのは当番お一人お一人の行いです。素晴らしい事です。

― おわりに ―

原稿依頼を受け振り返る機会を得ました。私自身のことを申せば「ポランティアです。」とは言えません。娘を見送った後、アル中にもならず浮世に留まり、花と共に人と交わり、今日まで過ごしてこられました。助けられているのは私自身です。

院内とびっくす

皇太子殿下 皇太子妃殿下 が当院をご視察

平成19年6月2日 皇太子殿下 皇太子妃殿下 が当院の新生児病棟と第1病棟を御視察されました。



散っていった花々に感謝。

― 当番募集中 ―

この会は五月〜十月が活動期間です。月に一日〜二日程、都合の良いときに、花の水くれをしてくださる方を募っています。

泌尿器科が常勤化されました

泌尿器科は一年間の非常勤医師による外来診療のあと、今年四月から開設、常勤となりました。こどもの腎・尿路疾患と男児生殖器疾患、性分化異常症、排尿機能の障害が主な診療分野で、診断から内科的・外科的治療まで行います。受診の多い疾患は、水腎症、膀胱尿管逆流症、尿路感染症、尿道下裂、停留精巣、尿失禁・夜尿症、神経因性膀胱、包茎、血尿などです。それぞれに早期に積極的治療が必要な疾患と、成長とともに治ってゆく疾患があり見きわめながら治療方針を決めてゆきます。また、頻尿・尿失禁など軽微な症状の児の中に腎機能低下をきたすような疾患が隠れているこ

ともあり注意が必要です。現在泌尿器科医は一名（西澤秀治、八十七年卒、日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本小児泌尿器科学会認定医）で、院内各科および信州大学医学部泌尿器科と連携しながら診療を行います。外来は月・水・金の週三日です。



長野県立こども病院外来 医師担当表

平成19年7月2日現在

外来名	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
南棟外来	整形外科	藤岡文夫(AM)	(手術日)	藤岡文夫 酒井典子 加藤博之 ^{※1}	藤岡文夫(装具)	藤岡文夫
	小児外科	好沢 克(AM)	百瀬芳隆(AM)		好沢 克(AM) 百瀬芳隆(PM)	町田水穂(AM)
	眼科	徳島忠弘		徳島忠弘		
	麻酔科	大畑 淳(AM)				井口まり(AM)
	皮膚科			太田由子(AM)		
	血液・腫瘍科	石井栄三郎	小林法元 石井(QOL PM)	石井栄三郎	西村貴文(AM)	吉川健太郎
	循環器科	原田順和 打田俊司(AM)	里見元義 安河内 聡	打田俊司(AM)	安河内・里見 ^{※4} 瀧間浄宏	安河内 聡 瀧間浄宏
北棟外来	脳神経外科	重田裕明(AM)	重田裕明(AM)		重田裕明(AM) 宮入洋祐(PM)	宮入洋祐(AM)
	形成外科	野口昌彦(PM) ^{※2} 近藤昭二(PM)	野口昌彦 近藤昭二(AM)	野口昌彦(AM) 近藤昭二	野口昌彦(PM) ^{※2} 近藤昭二(PM)	野口昌彦(PM) ^{※2} 近藤昭二(PM)
	総合診療科	川合 博 山崎和子 栗原伸芳	伯耆原 祥 依田達也	川合 博 中村友彦	伯耆原 祥 中村友彦(AM) 佐野葉子(PM)	山崎和子 依田達也
	神経科	平林伸一	平林伸一 平野 悟	笛木 昇 平林伸一(PM)	平野 悟(PM)	平林伸一 平野 悟
	精神科(こころの診療科) ^{※3}				原田 謙(PM)	
	遺伝科	川目 裕		川目 裕	川目 裕(PM)	川目 裕(AM)
	耳鼻いんこう科		工 穰 (PM2:00~5:00)			
	泌尿器科	西澤秀治		西澤秀治		西澤秀治
	産 科	菊池昭彦 高木紀美代	高木紀美代(PM)	高木紀美代	菊池昭彦(PM) 高木紀美代(PM)	菊池昭彦 高木紀美代
	リハビリ テーション科	笛木 昇	笛木 昇(PM) (嚥下摂食外来)	三沢朋子 平林伸一(AM)	笛木 昇 平野 悟(AM)	三沢朋子(AM) 三沢朋子 (PM装具)

※1 整形外科加藤医師は隔月第3水曜日のみです。

※2 再診の患者様のみです。

※3 精神科(こころの診療科)外来の初診を受けるには、あらかじめ総合診療科外来または神経科外来の受診が必要となります。

※4 胎児心臓外来:木曜日 安河内(午前)、里見(午後)

★ 診察時間:午前9時~午後4時 休診日:土日曜日、祝祭日、年末年始

★ 受診には予約が必要です。また初診時には保険医療機関からの紹介状が必要です。

予約受付時間:8時30分~17時15分 月曜日~金曜日(土日曜日、祝祭日、年末年始を除く)

予約専用電話 0263-73-5300

詳しい受診案内はこども病院ホームページにも掲載しています。(長野県立こども病院で検索してください。)

<http://www.pref.nagano.jp/xeisei/kodomo/index.htm>